



異文化コミュニケーション

11月4日

Sudden Fiction Project

高階 經啓
hirotakashina

だまされちゃあ、いけないよ。

事実は単純なんだ。いま目の前で見ておるとおり。君がいま東京にいるとして、そこで立っている状態がこれよ。ほらね。ここに人形を立てるよ。ここ、東京。わかる？ そして飛行機に乗ってぐるっと、リオ・デ・ジャネイロに着くとこの通り。リオの人を立たせてみよう。ね。どう、わかるかい？ ほらほらよく見て。東京の人と、リオの人を良く見比べて。何に気がつく？

え？ 両方とも磁石がついている？ ナウンナウン。ついてないよ、磁石なんて。何を言っているの？ あ。地球儀にくっついているからか。違うんだ。これ、磁石じゃなくて粘着テープなんだ。でも待った。そういうことじゃないんだ。どうやって地球儀にくっついているかとかそういうことを聞いているんじゃないんだ。

ほら、よくご覧よ。気づくだろう。一目瞭然。小学生にだってわかる。えっ？ どうしたの。どうして泣くの。小学生時代の話はしたくない？ どうして？ 家が貧しくて小学校にちゃんと通えなかった？ おいおい泣くなよ。ごめんごめん。悪かったってば。でもそういうことじゃないんだ。小学校に行ったとか行かなかったとかそういうことと関係なく、子どもにだってわかるよって話だ。ほらほらクイズだと思ってよく見て。クイズなんだから機嫌直してポニータ。ね。楽しい楽しいクイズなんだから。

ビンゴ！ その通り。ちょうど真っ逆様になっている！

だろ？ すぐわかったら？ え？ そんなこと最初の最初にわかってたって？ ブラボー！ 君のことだ、きっとそうじゃないかと思ってたよ。さすがだぜポニティーノ。その通り。ちょうど真っ逆様。お互いが足をくっつけ合って立っているような関係だ。そう、そもそもぼくたちはこういう関係で生まれているんだよ。このことはよく覚えておかななくてはいけない。

重力がどうしたとか、遠心力と求心力がどうしたとか言って、真っ逆さまでも落っこちないって話、聞いたことない？ ないの？ ないんだ。言うんだよ、そういう風に。逆さまに見えるけど大丈夫だとかさ。でもそういう話にだまされちゃいけないんだ。ぼくらはそもそも真っ逆様に生まれ育っているんだ。だからお互いのことを理解し合うのがとても大変なんだ。それでどうすればいいと思う？ 何がって？ 決まってるだろう？ ぼくたちがお互いに理解し合うためにさ！ こうやって真っ逆様の価値観を持ったぼくたちがお互いによーく分かり合うためにさ！

わからない？ わからないことないよ。ほら東京にいる君、その人形をよく見て。君、夜になったらどうする？ え？ 踊りに行く？ ああ。ああ、そうだねそうだねゴージャスだ。エスプレンドィード！ それから疲れたらどうする？ うん。ベッドにはいる。だろ？ 横になる。ほら。寝る。ね？ 見て見て。リオのぼくも横になる。寝る。ほらね、わかる？ ほらね。おなじ。一緒。君とぼく、一緒。もう逆さまじゃない。おなじになる。わかるかい？

そう。だからぼくたちが分かりあうためには一緒に横になること、大事。ね？ 一緒に寝る。ね？ ナウンナウン。ただ寝そべてどうするの。違うよ、小学生じゃないんだから。オー。泣かないで。ごめんごめん。シントムイト。もう小学生の話はしないから。だから分かりあおう。ぼくたち、立ってちゃわかりあえないこと、これでもわかるでしょう？ 立ったままだと逆さまだから君を泣かせてしまう。ね？ え？ 何？ 立ったままならシックスティ・ナインできるだろうって？ そっちの方がすごいって？ オー。オー。そういうね、難しいことを考えずに、最初は基本形から分かり合いましょう。

オーケー？ 何？ ブラジルの人たちはどうして落っこちてしまわないのかわからないって？ わかりました。ぼくたちお互いに分かり合えたらそのこと説明しましよう。ほら横になって。

感謝の言葉と、お願い&お誘い

Sudden Fiction Project（以下SFP）作品を読んでいただきありがとうございます。お楽しみいただけましたでしょうか？ もしも気に入っていただけたらぜひ「コメントする」のボタンをクリックして、コメントをお寄せください。ブログへの登録（無料）が必要になりますが、この機会にぜひ。

「気に入ったけどコメントを書くのは面倒だ」と言うそのあなた。それでは、ぜひ「ツイートする（Twitter）」「いいね！（Facebook）」あたりをご利用ください。あるいは、mixi、はてな等の外部連携で「気に入ったよ！」とアピールしていただくと大変ありがたいです。盛り上がります。

※星5つで、お気に入り度を示すこともできますようですが、面と向かって星をつけるのはひょっとしたら難しいかも知れませんね。すごく気に入ったら星5つつける、くらいの感じでご利用いただければ幸いです。

現在、連日作品を発表中です。2011年7月1日から2012年6月30日までの366日（2012年はうるう年）に対して、毎日「1日1篇のSFP作品がある」という状態をめざし、全作品を無料で大公開しています。→[公開中の作品一覧](#)

SFP作品は、元作品のクレジットをきちんと表記していただければ、転載や朗読などの上演、劇団の稽古場でのテキスト、舞台化や映像化などにも自由にご活用いただけます。詳しくは「[Sudden Fiction Project Guide](#)」というガイドブックにまとめておきました。使用時には、コメント欄で結構ですので一声おかけくださいね。

ちょっと楽屋話をすると、7月1日にこのプロジェクトを開始して以来、日を追うごとにつくづく思い知らされているのですが、これ、かなり大変なんです（笑）。毎日1篇、作品に手を入れてアップして、告知して、[Facebookページ](#)などに整理して……って、始める前に予想していたよりも遥かに手間がかかるんですね。みなさんからのコメント、ツイート（RT）、「いいね！」を励みにがんばっていますので、ぜひご協力お願いいたします。

読んでくださる方が増えるというのもとても嬉しい元気の素なので、気に入った作品を人に紹介して広めていただけるのも大歓迎です。上記Facebookページも、徐々に充実させてまいりますので、興味のある方はリンク先を訪れて、ページそのものに対して「いいね！」ボタンを押してご参加ください。

10月からは「1日1篇新作発表」の荒行（笑）を開始し、55作品ばかり書き上げる予定です。「[急募！お題 この秋Sudden Fiction Project開催します](#)」のコメント欄を使って、読者のみなさんからのお題を募集中です。自分の出したお題でおはなしがひとつ生まれるのって、ぼくも体験済みですが、かなり楽しいですよ！ はじめての方も、どうぞ気軽に遠慮なくご注文ください（お題は頂戴しても、お代は頂戴しないシステムでやっています。ご安心を）。

こんな調子で、2012年6月30日まで怒濤で突き進みます。他にはあんまりない、オンラインならではの風変わりな私設イベントです。ぜひ一緒に盛り上がってまいりましょう。

異文化コミュニケーション

<http://p.booklog.jp/book/37491>

著者 : hirotakashina

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hirotakashina/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/37491>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/37491>

公開中のSudden Fiction Project作品一覧

<http://p.booklog.jp/users/hirotakashina>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.